

平成 30 年度 国際理解ワークショップ 進行シート

作成日：平成 30 年 8 月 2 日

大 学 名： 上越教育大学タイトル：あなたの眼鏡はどんなフレーム？～見つめよう！世界の文化、人々、自分の見方～

1：本ワークショップの要旨

近年、世界の様々な文化や人が国を超えて往来し、多様な人々との関わりが増えている。そのようなグローバル化が進む社会の中で、地球上の人たちと共に生きていくためにはどうしたらいいのだろうか。本ワークショップでは、様々なクイズやアクティビティを通して、多様な習慣や価値観、背景を知り、日々の生活の中で多様な人々が持つ背景に思いを馳せ、そのような人々と出会った際に自分がどのように行動するかを考えていきたい。

2：本ワークショップの目的(目標、実現したいこと)

参加者には、人や国などによって様々な違いはあるけれど、まずはその違いに興味をもち、その違いが生まれる背景を理解することの大切さを考える契機となることを目的とする。最終的には、違いを認め合うだけでなく、違いを超えて、相手の置かれている立場や背景を自分のこととして考え、日常生活での意識や行動に繋げていくことを目的とする。

3：本トピックをとりあげる理由

21世紀は情報や産業技術の発達により、離れた国と国が容易に繋がるようになった。今や国の枠を超えて、相互に影響し合うグローバル化した中に私たちは暮らしている。日本は少子高齢化の進行で、高齢者を支える若手世代の働き手が減少し、2015年度の日本における外国人労働者は過去最高を更新している。2030年には65歳以上の年齢が人口の3割を超え、生産年齢人口が6割を下回るとされており、外国人労働者は今後も増加すると予想される。また、2015年度、新潟県内の宿泊施設に泊まった外国人の宿泊数は18万8624泊となり、3年連続で最多を更新している。このように、外国人とのコミュニケーションの機会は急激に増えており、文化背景の異なる人への開かれた心と態度、コミュニケーション活動への積極的な参加行動力を身に付ける重要性は高まっている。地球温暖化や難民問題などのような地球規模の課題から、日常の意思疎通に至るまで、文化や歴史が異なる人々とも共鳴する心を養い、相手の置かれている状況や立場を自分のこととして考えながら、違いを超えて共によりよく生きていくための行動力に繋げていこうと、本トピックを設定した。

4 : 活動過程

(使用時間 : 90分 参加人数 : 何人でも可)

過程 (所要時間)	活動内容	具体的な発問・ 説明・動きなど	ねらい	使用する 教材・備品	予想される反応、 その他注意事項
導入 : 起 (10分)	【アイスブレイク】 ・ 4 corners ・ Birthday Line-up _____人班を作る	「どんな共通点が出ましたか。どんな相違点が出ましたか」 「共通点を探すと相違点を探すと、どちらが難しかったですか」 「相談しないで自分で考えて動いて下さい」 「私は指名しません。皆から発言してくれると嬉しいです」 「どうしてその場に立っていますか」 「〇〇という理由を聞いてどう思いますか」 「この活動をやったと感じたことは何ですか」	身近な中でも共通点や相違点がたくさんあることに気づき、違いの楽しさを味わう。	(・マイク) ・スピーカー ・BGM	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共通点や相違点は何があるかな。 ・ できるだけたくさん挙げるぞ。 ・ 好きな季節はそれぞれ違うんだ。 生徒の幅広い考えを拾い上げ、肯定的に捉える。

<p>展開：承 (35分)</p>	<p>【クイズ・シュミレーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> 異文化に関する問題に取り組み、班で話し合い、考えを全体で共有し、解説を加えていく。 <p>Q1 ブルガリアの返事 Q2 パプアニューギニアの食 Q3 日本の公共の場所の祈祷室 Q4 アメリカのコミュニケーション Q5 自分が転校したら Q6 転校生と共に学ぶには (Q5で転校生としての立場を考えた上で、Q6で転校生と共に学ぶ立場としての自分の行動を考える)</p>	<p>「先ほどは皆さんの共通点や違いを色々感じたと思います。次は外国に焦点を当てて、いくつか問題を出します。班で答えを考えて発表してもらいます。その後、解説をします」(はじめは選択肢形式を主とし、後半は記述式を主とする。ワークシートを全員に配布して、まずは個人で思考を深め、その後班で話し合い、様々な考えが出てきそうなタスクとする)</p>	<p>異文化やコミュニケーションに関して、理解を深める</p>	<ul style="list-style-type: none"> ミニホワイトボード(班の数) ペン(班の数) ワークシート(全員) プロジェクター スクリーン(・マイク) 	<ul style="list-style-type: none"> 楽しそう。 難しそう。 頑張るぞ。 <p>※ 班隊形。 ※ 問題数と内容は学習者や授業進度に合わせて変える。 場面提示、思考、相談、解説とメリハリをつけて進める。</p>
<p>発展：転 (35分)</p>	<p>【ディスカッション】</p> <ul style="list-style-type: none"> 最初に「文化」について考えた後、様々な文化背景や価値観をもつ人たちと共に生活していく上で、どのようなこと(知識や態 	<ul style="list-style-type: none"> 一度に全部説明せずに、活動ごとに区切って説明をする。 <p>「文化と聞いて、連想することは何でしょう？」 「様々な文化背景や価値観をもつ人たちと共に生活し</p>	<p>様々な文化背景や価値観をもつ人たちと共に生活していく上で、どのようなこと(知識や態度)が大切かを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 無地の紙(生徒数×10枚) 模造紙(班の数) マジック(1人1本) のり(班の数) プロジェクター 	<ul style="list-style-type: none"> 難しそう。 大切なことって何だろう。 頑張るぞ。 <p>※ どの意見も肯定的に捉えることを確認する。 ※ 班の様子を見て、必要に応じ</p>

	<p>度)が大切か考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ まずは個人でブレインストーミングをして、大切だと思うことを1つ決める。 ・ その後、個人で決めた1つを達成するための具体的な行動を5つ考える。 (クラゲチャートにまとめる) ・ その後、班で考えを出し合い、集約し、大きなクラゲチャートにまとめる。 (足の数は問わない) ・ 時間が余ったら、各班のランキングをワールドカフェ (前半後半)で共有する。 ・ Q6 を改めて振り返り、必要に応じて班活動の様子をもう一度問いかけ、考える。 	<p>ていく上で、どのようなこと(知識や態度)が大切だと思いますか？まずは自分で考えて、一枚の紙に考えを書いてください。考えたことは遠慮なくどんどん書いてください。その後、班で話し合います。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その後、班での話し合い方、ランキングの付け方を説明する。 ・最後に共有の仕方について説明する。 ・最後のクイズに入る前に、「承」のQ6での自分の考えを振り返る時間を設ける。 		<ul style="list-style-type: none"> ・スクリーン (・マイク) 	<p>て問いかけや声がけなどをしていく。 いろいろな意見をサブFTが拾って、メインFTに知らせる</p>
--	---	--	--	---	--

<p>まとめ：結 (10分)</p>	<p>【振り返り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返りをワークシートに記入する。「転」で挙げた項目で、自分の強みと弱みを考えさせても良い。(5分) ・ 振り返りをペアや全体で共有する。(3分) ・ 参加者の取組の評価と授業者の願いを述べて終える。(2分) 	<p>個人で今日の活動を振り返る。(机を元に戻し、静かに振り返りを行う)</p> <p>「最後に、この授業で学んだことや感じたこと、今後に活かしたいことをワークシートに記入してください。時間は5分間です。」</p> <p>「では、書いたことをもとにペアで伝え合ってください。時間は2分間です。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 理想と現実のギャップを認識させ、再度自らの行動を考える。 ・ この授業を振り返り、学んだことや感じたこと、今後の目標を明確にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシート (全員分) (・マイク) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 考えに差があるなあ。 ・ どんな行動がいいか、もう一度考えよう。 ・ 何を学んだかな。 ・ 活かしたいことは何だろう。 <p>※静かな雰囲気を取り組ませる。</p>
------------------------	--	---	--	--	---

5：会場のセッティング

普通の授業隊形

※途中から班隊形(4～最大6人班)になります。すぐに班になれるようにお願いします。

※パワーポイントを使います。プロジェクターやスクリーン(または大型テレビ)の設置が必要です。

6：使用する教材

パソコン、プロジェクター、スクリーン、スピーカー、BGM、ミニホワイトボード、ホワイトボードマーカー、ワークシート、無地の紙(A4を縦に3分の1に切ったものを生徒数×10枚分)、マジック、のり、模造紙

※会場の広さや参加人数によってはマイクを使用)

7：参考にした資料

・「異文化コミュニケーション・ワークブック」矢代京子・荒木晶子・樋口容視子・山本志都・コミサロフ喜美、三修社、2001

・「『共に生きる』をデザインするグローバル教育 教材と活用ハンドブック」NPO 法人全国国際教育協会、株式会社メディア総合研究所、2012

・「身近なことから世界と私を考える授業Ⅱ」開発教育研究会、明石書店、2012

・「創造的に対立解決 一教え方ガイド」リンダ・ランティエリ、トム・ロドリック、ペギー・レイ、シェイラ・アルソン、開発教育研究会、立教大学ESD研究センター、2012

・「多様性教育入門 参加型人権教育の展開」大阪多様性教育ネットワーク、森実、解放出版社、2005

- ・「多文化教育がわかる事典」松尾知明、明石書店、2013
- ・「生徒の生き方が変わる グローバル教育の実践」石森広美、メディア総合研究所、2015
 - ・「ワールド・カフェをやろう！」香取一昭・大川恒、日本経済新聞出版社、2009
 - ・「JAPAN CLASS 一方、そのころ日本では…」ジャパンクラス編集部、東邦出版、2015
 - ・「JICA 国際理解教育実践資料集 ～世界を知ろう！考えよう！～」JICA 地球ひろば、2013

8：その他